

教科名	国語科	科目名	国語総合	単位数	5 単位
対象学年	第1学年 普通科 特別進学コースα	履修形態	必修	授業形態	一斉授業
学習目標	言葉を的確に理解し、表現を味わい、国語への関心を深めるとともに読解力・表現力の向上を目指す。古典においては、それぞれの時代背景や生き方に関心を持たせ、古文・漢文の響きを味わう。				
進め方	教科書・板書を中心に講義を進める。必要に応じて内容理解のためのプリントを配布して補足したり、プリント等による問題演習や口頭での発表を行って、理解を深めさせるよう考慮する。又、古典においてはシラバスに掲載していない他の関連作品なども取り上げ、古典への関心を更に深めさせる。				
評価の観点 評価方法	規定に従い、1学期・2学期・3学期とも定期考査の点数と平常点、出席点で評価する。平常点20点は授業態度、意欲、提出物、単元別小テストの4項目各5点で総合的に評価する。				
使用教材	三省堂『精選 国語総合 改訂版』 尚文出版『常用漢字クリア』 その他自主教材				
その他	漢字テストは前もって範囲を提示し、適時実施する。				

年 間 授 業 計 画

月	学習項目	時間数	学習到達目標
4	1、現代文 随想 ぐうぜん、うたがう、読書のススメ 2、古典 「児のそら寝」 漢文の世界へ	5 5 5	随筆では、自由な発想から生まれたものの考え方を読み取る。古文は古典への興味を喚起し、漢文は訓点の働きを理解して訓読することで、漢文を読む面白さを知る。
5	1、現代文 随想 「待つ」ということ 作文 「私を紹介します」 2、古典 「検非違使忠明」 漢文の構造と訓読の仕方 《中間考査》	5 5 4 4	随想では、ゆとりが持てない現代社会について確認させる。また、作文によって表現することの大切さを知る。古文は訳を出来ることを漢文は書き下し文ができる事を目標とする。
6	1、現代文 小説 羅生門 ゴール 2、古典 用言の活用・係り結び 「絵仏師良秀」	5 5 7 5	小説では、人物の心情を読み取り、「人間」のありようを探る。また、「ゴール」という題名に込められた意味を考えさせる。古典は文法の基本事項を理解して、文章で慣れる。
7	1、現代文 評論 水の東西 表現「本を紹介しよう」 《期末考査》 2、古典 古文 「かぐや姫の生い立ち」 漢文 「推敲」	6 3 3 3	評論では、水を通して西洋文化と東洋文化のあり方について考えさせる。古典では用言の練習問題、訓読・書き下し文などの練習問題を通じ、基本事項を確認する。
8	1、現代文 評論 言語は色眼鏡である 2、古典 古文 「かぐや姫の成長」	3 5	評論を読み、言語体系によって思考が変化することを認識させる。また、古典では親しみ深い文章から古文の世界を感じ取らせる。さらに用言の活用について復習する。
9	1、現代文 評論 自然をめぐる合意の設計 2、古典 古文 「芥川」「東下り」 助動詞の用法 漢文 「漁父之利」	4 4 4 3	評論文を通じて、人間と自然のありかたについて論を深める。また、古文では助動詞を扱い、文章が理解できるようにする。漢文は、書き下し文と訳ができるようにする。
10	1、現代文 詩 旅上・サーカス 《中間考査》 2、古典 古文 「つれづれなるままに」 漢文 「借虎威」	7 4 4	詩では作品世界の理解を深め、詩人たちの個性に触れる。古文は「徒然草」を通じて、兼好法師の思想について考えさせる。漢文は、故事成語の面白さを味わえるようにする。
11	1、現代文 詩 I was born 崖 2、古典 古文 「ある人、弓射る…」助動詞の復習 漢文 「蛇足」 《期末考査》	7 8 8	詩の世界を通じて、作者の人生観や生き様について理解させる。また、古文は助動詞を中心として、文章表現力を高めさせる。漢文は、文章の面白さを理解させる。
12	1、現代文 小説二 青兵衛と瓢箪 表現「新聞に投書してみよう」 2、古典 古文 助動詞の復習 漢文 漢詩八首	4 2 6 6	小説を通じて人間関係について考えさせる。また、新聞に投書をする形式によって、文章能力を高める。古文は助動詞の意味を理解させると共に漢文の句法を意識させる。
1	1、現代文 小説二 青が消える 2、古典 古文 門出・忘れ貝 漢文 漢詩八首	7 6 6	小説では、突然大切なものがなくなってしまう哀しみを味わせる。古文は助動詞を意識した訳ができるようにする。また、漢文の句法について、反復して、復習を行う。
2	1、現代文 評論二 情報と身体 2、古典 古文 助詞の用法 漢文 漢詩八首 《学年末考査》	6 4 10	評論は「情報リテラシー」について問題意識を喚起させる。古文は助詞を扱い、正確な訳が出来るようにする。また、漢文は詩を精読し、句法について触れていく。
3	1、現代文 評論二 「もの」の科学から「こと」の科学へ 2、古典 古文 文法のまとめ 漢文 句法練習	5 5 5	現代文は、科学の基本的な考え方が変化した点を認識させる。また、古文・漢文は「文法」「句法」について、総復習をしていき、来年度には自由に文章が読めるように指導する。

教科名	国語科	科目名	国語総合	単位数	5 単位
対象学年	第1学年 普通科 特別進学コースβ	履修形態	必修	授業形態	一斉授業
学習目標	言葉を的確に理解し、表現を味わい、国語への関心を深めるとともに読解力・表現力の向上を目指す。古典においては、それぞれの時代背景や生き方に関心を持たせ、古文・漢文の響きを味わう。				
進め方	教科書・板書を中心に講義を進める。必要に応じて内容理解のためのプリントを配布して補足したり、プリント等による問題演習や口頭での発表を行って、理解を深めさせるよう考慮する。又、古典においてはシラバスに掲載していない他の関連作品なども取り上げ、古典への関心を更に深めさせる。				
評価の観点 評価方法	規定に従い、1学期・2学期・3学期とも定期考査の点数と平常点、出席点で評価する。平常点20点は授業態度、意欲、提出物、単元別小テストの4項目各5点で総合的に評価する。				
使用教材	三省堂『精選 国語総合 改訂版』 尚文出版『常用漢字クリア』 その他自主教材				
その他	漢字テストは前もって範囲を提示し、適時実施する。				

年 間 授 業 計 画

月	学習項目	時間数	学習到達目標
4	1、現代文 随想 ぐうぜん、うたがう、読書のススメ	10	随筆では、自由な発想から生まれたものの考え方を読み取る。古文は古典への興味を喚起し、漢文は訓点の働きを理解して訓読することで、漢文を読む面白さを知る。
	2、古典 「児のそら寝」 漢文の世界へ	5 10	
5	1、現代文 随想 「待つ」ということ 作文 「私を紹介します」	5 2	随想では、ゆとりが持てない現代社会について確認させる。また、作文によって表現することの大切さを知る。古文は訳を出来ることを漢文は書き下し文ができる事を目標とする。
	2、古典 「検非違使忠明」 漢文の構造と訓読の仕方 《中間考査》	6 6	
6	1、現代文 小説 羅生門 ゴール	10 5	小説では、人物の心情を読み取り、「人間」のありようを探る。また、「ゴール」という題名に込められた意味を考えさせる。古典は文法の基本事項を理解して、文章で慣れる。
	2、古典 用言の活用・係り結び 「絵仏師良秀」	7 6	
7	1、現代文 評論 水の東西 表現「本を紹介しよう」 《期末考査》	6 3	評論では、水を通して西洋文化と東洋文化のあり方について考えさせる。古典では用言の練習問題、訓読・書き下し文などの練習問題を通じ、基本事項を確認する。
	2、古典 古文 「かぐや姫の生い立ち」 漢文 「推敲」	3 3	
8	1、現代文 評論 言語は色眼鏡である	3	評論を読み、言語体系によって思考が変化することを認識させる。また、古典では親しみ深い文章から古文の世界を感じ取らせる。さらに用言の活用について復習する。
	2、古典 古文 「かぐや姫の成長」	2	
9	1、現代文 評論 自然をめぐる合意の設計	6	評論文を通じて、人間と自然のありかたについて論を深める。また、古文では助動詞を扱い、文章が理解できるようにする。漢文は、書き下し文と訳ができるようにする。
	2、古典 古文 「芥川」「東下り」 助動詞の用法 漢文 「漁父之利」	6 6 3	
10	1、現代文 詩 旅上・サーカス 《中間考査》	7	詩では作品世界の理解を深め、詩人たちの個性に触れる。古文は「徒然草」を通じて、兼好法師の思想について考えさせる。漢文は、故事成語の面白さを味わえるようにする。
	2、古典 古文 「つれづれなるままに」 漢文 「借虎威」	4 4	
11	1、現代文 詩 I was born 崖	7	詩の世界を通じて、作者の人生観や生き様について理解させる。また、古文は助動詞を中心として、文章表現力を高めさせる。漢文は、文章の面白さを理解させる。
	2、古典 古文 「ある人、弓射る…」助動詞の復習 漢文 「蛇足」 《期末考査》	8 3	
12	1、現代文 小説二 青兵衛と瓢箪 表現「新聞に投書してみよう」	4 2	小説を通じて人間関係について考えさせる。また、新聞に投書をする形式によって、文章能力を高める。古文は助動詞の意味を理解させると共に漢文の句法を意識させる。
	2、古典 古文 助動詞の復習 漢文 漢詩八首	6 6	
1	1、現代文 小説二 青が消える	7	小説では、突然大切なものがなくなってしまう哀しみを味わせる。古文は助動詞を意識した訳ができるようにする。また、漢文の句法について、反復して、復習を行う。
	2、古典 古文 門出・忘れ貝 漢文 漢詩八首	4 4	
2	1、現代文 評論二 情報と身体	6	評論は「情報リテラシー」について問題意識を喚起させる。古文は助詞を扱い、正確な訳が出来るようにする。また、漢文は詩を精読し、句法について触れていく。
	2、古典 古文 助詞の用法 漢文 漢詩八首 《学年末考査》	4 10	
3	1、現代文 評論二 「もの」の科学から「こと」の科学へ	5	現代文は、科学の基本的な考え方が変化した点を認識させる。また、古文・漢文は「文法」「句法」について、総復習をしていき、来年度には自由に文章が読めるように指導する。
	2、古典 古文 文法のまとめ 漢文 句法練習	5 5	

教科名	国語科	科目名	国語総合	単位数	5 単位
対象学年	第1学年 普通科 進学コース	履修形態	必修	授業形態	一斉授業
学習目標	言葉を的確に理解し、表現を味わい、国語への関心を深めるとともに読解力・表現力の向上を目指す。古典においては、それぞれの時代背景や生き方に関心を持たせ、古文・漢文の響きを味わう。				
進め方	教科書・板書を中心に講義を進める。必要に応じて内容理解のためのプリントを配布して補足したり、プリント等による問題演習や口頭での発表を行って、理解を深めさせるよう考慮する。又、古典においてはシラバスに掲載していない他の関連作品なども取り上げ、古典への関心を更に深めさせる。				
評価の観点 評価方法	規定に従い、1学期・2学期・3学期とも定期考査の点数と平常点、出席点で評価する。平常点20点は授業態度、意欲、提出物、単元別小テストの4項目各5点で総合的に評価する。				
使用教材	三省堂『明解 国語総合 改訂版』 尚文出版『常用漢字クリア』 その他自主教材				
その他	漢字テストは前もって範囲を提示し、適時実施する。				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時 間	学 習 の ポ イ ン ト	主 な 学 校 行 事
4	随想一 古文入門	ベトナムのコーヒー屋	5	新入生に対して、共感しやすい随筆を文章を読み味わう。また、古文への興味を喚起し、歴史的仮名遣いを意識させる。	始業式
		古文の世界へ	5		
		漢字演習(7級)	5		
5	随想一 古文入門	負け方を習得する	5	勝ちにこだわる現代社会の問題点は何かについて考えを深める。古文では見平易で興味深い説話に接することで古文に対する親近感を持たせる。	中間考査
		児のそら寝	5		
		漢字演習(7級)	5		
6	小説一 古文入門	とんかつ	8	少年とそれを支える母親、二人を見守る宿の人たちの交流と心情を読み取る。古文では主人公の置かれた状況に身を置いて気持ちを想像させる。	
		検非違使忠明	7		
		漢字演習(6級)	5		
7	漢文入門 表現の実践	古文の世界へ・児のそら寝(6月2時間・7月5時間)	5 5 5	漢文を学習する上での基本的な事項について、確認をする。特に、「送り仮名」「訓点」などの原則については、繰り返し演習する。	期末考査 終業式
		適切な言葉遣い			
8	小説一	オムライス(8月・9月で計8時間)	5	公園で拾った本が男の子の心情にもたらした変化について考える。また、小説中の表現の特徴を捉え、その表現に託された男の子の心情を捉える。	始業式
9	詩 随筆	シリウス・シジミ・校庭で	3	詩の形式に注意し、言葉の中に込められた意味を考察できるようにする。	
		徒然草(公世の二位のせうとに)	9		
			8		
10	漢文入門	故事成語	5	我々が普段使っている言葉が、実は漢文から来ていることを理解できるようにする。また、今まで学んだ古典文法を総復習していく。	中間考査
		古典文法	10		
		漢字演習(5級)	5		
11	評論一 随筆	魚は陸から離れられない	10	論理的な文章を通し、具体例と論旨が理解できるようにする。また、古文では本文に書かれた内容が、現代にも通じるものであることを理解させる。	
		徒然草(高名の木登り)	5		
		漢字演習(4級)	5		
12	漢文入門	虎の威を借る	10	故事成語が現代の日本でも通用する普遍的な話であることを理解する。古典文法は主に動詞の活用について理解する。	期末考査
		古典文法	10		終業式
1	随想二	ツゴイネルワイゼン	8	一人の人間と戦争との関わりをもとに、人間の生き方について考えを深める。文章の構成に着目して出来事を捉え、筆者の思いを読み取る。	始業式
		漢字演習(4級)	2		
		蛇足	5		
2	随想二	徒然草(丹波に出雲といふ所)	2	古文を読み味わい、話の面白さを理解すると共に、今まで習った古典文法を復習し、特に形容詞・形容動詞を理解できるようにする。	期末考査
		古典文法	8		
		漢字演習(4級)	5 5		
3	表現の実践	手紙の書き方	5	実際に手紙を書き、手紙の書き方、書式に慣れさせる。また、便箋・封筒やはがきを書く上での注意事項を学ばせる。	終業式
		ことわざ・慣用句	5		
		漢字演習(P56~P63)	5		

教科名	国語科	科目名	国語総合	単位数	5 単位
対象学年	第1学年 普通科 総合選択	履修形態	必修	授業形態	一斉授業
学習目標	言葉を的確に理解し、表現を味わい、国語への関心を深めるとともに読解力・表現力の向上を目指す。古典においては、それぞれの時代背景や生き方に関心を持たせ、古文・漢文の響きを味わう。				
進め方	教科書・板書を中心に講義を進める。必要に応じて内容理解のためのプリントを配布して補足したり、プリント等による問題演習や口頭での発表を行って、理解を深めさせるよう考慮する。又、古典においてはシラバスに掲載していない他の関連作品なども取り上げ、古典への関心を更に深めさせる。				
評価の観点 評価方法	規定に従い、1学期・2学期・3学期とも定期考査の点数と平常点、出席点で評価する。平常点20点は授業態度、意欲、提出物、単元別小テストの4項目各5点で総合的に評価する。				
使用教材	三省堂『明解 国語総合 改訂版』 尚文出版『常用漢字クリア』 その他自主教材				
その他	漢字テストは前もって範囲を提示し、適時実施する。				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時 間	学 習 の ポ イ ン ト	主 な 学 校 行 事
4	随想一 古文入門	ベトナムのコーヒー屋	5	新入生に対して、共感しやすい随筆を文章を読み味わう。また、古文への興味を喚起し、歴史的仮名遣いを意識させる。	始業式
		古文の世界へ	5		
		漢字演習(7級)	5		
5	随想一 古文入門	負け方を習得する	5	勝ちにこだわる現代社会の問題点は何かについて考えを深める。古文では兎平易で興味深い説話に接することで古文に対する親近感を持たせる。	中間考査
		児のそら寝	5		
		漢字演習(7級)	5		
6	小説一 古文入門	とんかつ	8	少年とそれを支える母親、二人を見守る宿の人たちの交流と心情を読み取る。古文では主人公の置かれた状況に身を置いて気持ちを想像させる。	
		検非違使忠明	7		
		漢字演習(6級)	5		
7	漢文入門 表現の実践	古文の世界へ・児のそら寝(6月2時間・7月5時間)	5	漢文を学習する上での基本的な事項について、確認をする。特に、「送り仮名」「訓点」などの原則については、繰り返し演習する。	期末考査
		適切な言葉遣い	5		終業式
8	小説一	オムライス(8月・9月で計8時間)	5	公園で拾った本が男の子の心情にもたらした変化について考える。また、小説中の表現の特徴を捉え、その表現に託された男の子の心情を捉える。	始業式
9	詩 随筆	シリウス・シジミ・校庭で	3	詩の形式に注意し、言葉の中に込められた意味を考察できるようにする。 歴史的仮名遣いに注意して、この話に込められた教訓まで触れる。	
		徒然草(公世の二位のせうとに)	8		
10	漢文入門	故事成語	10	我々が普段使っている言葉が、実は漢文から来ていることを理解できるようにする。また、今まで学んだ古典文法を総復習していく。	中間考査
		古典文法	10		
		漢字演習(5級)	5		
11	評論一 随筆	魚は陸から離れられない	10	論理的な文章を通し、具体例と論旨が理解できるようにする。また、古文では本文に書かれた内容が、現代にも通じるものであることを理解させる。	
		徒然草(高名の木登り)	10		
		漢字演習(4級)	6		
12	漢文入門	虎の威を借る	5	故事成語が現代の日本でも通用する普遍的な話であることを理解する。古典文法は主に動詞の活用について理解する。	期末考査
		古典文法	5		終業式
1	随想二	ツゴイネルワイゼン	8	一人の人間と戦争との関わりをもとに、人間の生き方について考えを深める。文章の構成に着目して出来事を捉え、筆者の思いを読み取る。	始業式
		漢字演習(4級)	2		
		蛇足	5		
2	随想二	徒然草(丹波に出雲といふ所)	2	古文を読み味わい、話の面白さを理解すると共に、今まで習った古典文法を復習し、特に形容詞・形容動詞を理解できるようにする。	期末考査
		古典文法	8		
		漢字演習(4級)	5		
3	表現の実践	手紙の書き方	5	実際に手紙を書き、手紙の書き方、書式に慣れさせる。また、便箋・封筒やはがきを書く上での注意事項を学ばせる。	終業式
		ことわざ・慣用句	5		
		漢字演習(P56～P63)	5		

教科名	地理	科目名	地理A	単位数	2単位
対象学年	第2学年 普通科総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	クラス単位
科目の目標	「現代世界の地理的諸課題を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う」という指導要領に示された目標が本科目の目標である。				
学習内容の概要	「私たちの地球を見つめる」「さまざまな地域の生活と環境」「地球的に広がる課題」の3部を学習する。				
学習方法	科目の目標が達成できるように、また単なる知識の暗記に陥らないように生徒自らが「何故だろう」と絶えず発想し、興味を持って学習できるように工夫する。				
評価の観点・ 評価方法	知識の暗記だけではなく、発想の広がりを持った生徒を育てることに留意したい。 具体的な評価として、定期考査・各課題の提出状況・出席状況・授業中の態度等をもとに総合的に評価する。				
使用教材	帝国書院「高等学校新地理A初訂版」 帝国書院「新詳高等地図初訂版」				
その他	興味を持たせる授業にするために「身近な知識」を学習させることが重要であると思い、よく耳にする都市や地形について写真を提示しながら、地図帳を用いて学習させている。				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な評価
4	「人間生活と り巻く環境」	○自然環境・社会環境 ○世界と大地形 ○山地・平野の地形と人々の生活	2 2 2	○内的営力・外的営力・プレートテクトニクス論等を理解させる。 ○様々な地形のもとで人々は自然に適応しながら生活しており、特に沖積平野(扇状地・三角州)・洪積台地等で土地利用の仕方、集落の立地について考えさせる。	始業式
5	「人間生活と り巻く環境」	○海岸の地形と人々の生活 ○氷河・カルスト・乾燥地形 ○生活と気候の関わり 気候要素・因子、風の種類など ○ケッペンの気候区分 熱帯の生活	2 2 2	○リアス式海岸の特徴から、何故「津波」の被害が恐ろしいかを考えさせる。 ○具体例を挙げ、写真や地図で確認しながら、地形の成因などを考えさせる。 ○写真を参照させたいうで、雨温図や分布図の読み取りをさせ、各気候の特徴を理解する。	中間考査
6	「人間生活と り巻く環境」	乾燥帯の生活 温帯の生活 亜寒帯・寒帯の生活 ○人々の生活と社会環境 宗教・言語	2 2 2 2	○ 同上 ○世界の人々の生活と宗教・言語の関わりを具体的事例から理解させる。	インター ンシップ 期末考査

7	「世界の諸地域の生活・文化」	○中国の生活・文化 自然環境・歴史	2 2 2	○広大な国土、多様な自然環境、巨大な人口を持つ中国の変化を理解させる。	終業式
8	「世界の諸地域の生活・文化」	農業・工業	2	○同上	始業式
9	「世界の諸地域の生活・文化」	○朝鮮半島の生活・文化 自然環境・歴史・工業 ○東南アジアの生活・文化 自然環境・歴史・農業・工業	2 2 2 2	○韓国の自然環境を理解し、どのような歴史を辿り、現在の社会があるのかを考え、日本との交流を考察させる。 ○東南アジアの民族、文化(言語・宗教・生活)の多様性を理解させる。ASEANにも触れておく。 東南アジアの場所も確認させる。	
10	「世界の諸地域の生活・文化」	○インドの生活・文化 自然環境・歴史・農業・工業 ○中央アジア・西アジア・北アフリカの生活・文化 自然環境・歴史・工業	2 2 2 2	○インドの自然環境を踏まえ、民族宗教であるヒンドゥー教がどのように文化や生活に影響を与えているのかを考察させる。 ○中央・西アジア、北アフリカの自然環境を踏まえ、それぞれの歴史とイスラム教がどのように結びついているのか理解させる。 ・豊富な石油資源がどのように人々の生活に影響を与えているのかを考察する。	中間考査
11	「世界の諸地域の生活・文化」	○サハラ以南のアフリカの生活 自然環境・歴史・文化 ○ヨーロッパの生活・文化 自然環境	2 2 2 2	○サハラ以南のアフリカの自然環境を踏まえ、歴史を辿り、どのような文化が形成されたのかを理解させる。 ・産業の変化や、南アフリカ共和国の変化や、経済的自立について考察させる。 ○ヨーロッパの自然環境を理解し、特色のある農業を知り、日本と比較する。	期末考査
12	「世界の諸地域の生活・文化」	文化・産業	2 2 2	○ヨーロッパの多様な民族・宗教・言語の違いを踏まえた上で、歴史を辿る。 ○EU(ヨーロッパ連合)のできる過程を辿り、ヨーロッパまた世界においてどのような影響を与えているのかを考え、問題点も検討させる。	終業式

1	「世界の諸地域の生活・文化」	○ロシアの生活・文化 自然環境・歴史・産業	2 2 2	○広大な面積・自然環境を踏まえ、気候区分を復習した上で、日本と比較する。 成立過程を社会主義の観点も踏まえ、現在の社会を考察させる。経済を支える豊かな資源を知り、日本とどのように関わりを持っているのかを把握させる。	始業式
2	「世界の諸地域の生活・文化」 「身近な知識」 「世界の諸地域の生活・文化」	○アメリカ合衆国の生活・文化 自然環境・文化・農業・産業 ○ラテンアメリカの生活・文化	2 2 2	○異民族国家としての「アメリカ合衆国」の多民族・多文化の現状を中心に理解させる。	期末考査
3	「世界の諸地域の生活・文化」 「地球的課題と私達」	○オーストラリアの生活・文化 ○世界の食糧問題 ○世界の環境問題	2 2 2	○同上 ○発展途上国では深刻な食糧不足で悩んでいる国が多い。「飽食日本」の現状を比較し考えさせる。 ○地球規模で進行している環境問題の解決への取り組みについて考えさせる。	終業式

教科名	公民科	科目名	現代社会	単位数	3単位
対象学年	普通科特別進学コースαβ 第1学年	履修形態	必修	授業形態	一斉授業
a. 科目の目標	現代社会の諸問題を主体的に考察・公正に判断する力、人としての生き方・在り方について考察する力を養う。				
b. 学習内容の概要	1部「わたしたちの生きる社会」2部「現代の社会と人間」3部「ともに生きる社会をめざして」				
c. 学習方法	教科書・現代社会ワークノート・資料集等を用いて現代社会の現状と諸問題を考えさせる。				
d. 評価方法	定期考査・現代社会ワークノート・主体的な学習への取り組み・出席状況				
e. 使用教材	教科書 東京書籍「現代社会313」 東京書籍「現代社会ワークノート」				
f. その他					

年 間 授 業 計 画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	留意事項		
4	第2章 「日本国憲法と 民主政治」	①民主政治の成立	3	○中学校での学習確認とまとめ ○年間予定の説明と確認 ○学習ノートの活用と確認 ○民主政治の流れと基本的な考え方を理解 ○重要語句のまとめ	始業式		
	1 民主政治とは	②基本的人権の確立	3		三瓶合宿		
		③世界の政治体制	3				
5	2 日本国憲法の 基本原理	①日本国憲法と三つの原理	3	○明治憲法との比較から日本国憲法を整理していく。 ○日本の安全保障の流れを確認し、整理していく。	中間考査		
		②③基本的人権の保障(1)(2)	3				
		④新しい人権と人権保障の進展 ⑤平和主義と安全保障	3				
6	3 日本の政治機構	①国会と立法 ②内閣と行政	3	○国会の構成と現状についてまとめていく。 ○行政機構のしくみと仕事を整理していく。 ○裁判制度についての理解(資料参考) ○地方と国政の関わりをまとめる。 ○選挙の4原則・政党の意義を押さえておく。 ○重要語句のまとめ	県総体		
		③裁判所と司法 ④地方自治	3				
		4 現代政治の 特質と課題	①選挙のしくみと課題 ②政党と利益集団 ③世論と政治参加			3 3	期末考査
7	第3章 「個人の尊重と 法の支配」	①法の支配と人権 ②市民生活と法 ③司法と人権 ④他者とともに生きる	3 3 3 3	○私たちの暮らしが法に支えられていることを意識させる。 ○重要語句のまとめ ○1学期のまとめ	スポーツ祭 懇談会 終業式		
	8	第4章 「現代の経済と 国民福祉」	①経済社会の変容 ②現代の企業		3	○資本主義経済の成立・流れをまとめる。	始業式
		1 経済のしくみ	③市場経済のしくみ ④国民所得～⑤金融のしくみ～ ⑥中央銀行の役割と金融自由化 ⑦政府の役割と財政		3 3 3 3		
9		2 変化する日本経済	①戦後復興と～②産業構造の～ ③経済のバブル～④日本経済～ ⑤中小企業と農業	3 3 3	中間考査 体育祭		
10	3 豊かな生活の実現		3	○重要語句のまとめ			
	11	第5章 「国際社会と 人類の課題」	①貿易と国際分業 ②外国為替のしくみと国際収支 ③戦後国際経済の枠組みと～ ④対立と協調～⑤グローバル化～	3 3 3 3	○世界経済と日本経済の関わりについて 貿易・為替等の指標や資料を参考とし、 経済のグローバル化を考えていく。 ○重要語句のまとめ	創立記念日 文化祭 期末考査	
		1 国際経済のしくみ～	①国際社会の成り立ち ②国際紛争～③国際連合～ ④東西対立～⑤核兵器～	3 3 3			
12		2 国際政治のしくみ～		3		○国連を中心に国際社会を考えていく。 ○重要語句のまとめ ○2学期のまとめ	終業式
1	「私たちの生きる社会」						
	1 地球環境と～	①地球環境～②資源・エネルギー	3	○資料集を中心に環境・科学・情報問題等を考えていく。 ○重要語句のまとめ	始業式		
	2 科学技術の～		3				
3 情報化の～		3					
2	「現代の社会と人間」 第1章「青年期と～」	①現代社会の特質 ②現代社会における青年 ③自己形成と社会とのかかわり ④進路と生きがいの創造	3 3 3 3	○青年期の課題を自己の問題として考えさせていきたい。 ○重要語句のまとめ	期末考査		
	1 現代社会と 青年の生き方	①～⑦外来思想の受容と～	3				
	2 よりよく生きる ことを求めて	①～⑦日本の役割	3				
3	3 国際社会の現状と 課題	※第3部「ともに生きる社会を めざして」	3	○歴史上の人物の生き方・在り方を参考とし 共生社会の実現を考えていく。 ○3学期のまとめ ○年間のまとめ	卒業式		

教科名	公民科	科目名	現代社会	単位数	3単位
対象学年	普通科進学・総合選択 第1学年	履修形態	必修	授業形態	一斉授業
a. 科目の目標	現代社会の諸問題を主体的に考察・公正に判断する力、人としての生き方・在り方について考察する力を養う。				
b. 学習内容の概要	1部「わたしたちの生きる社会」 2部「現代の社会と人間」 3部「ともに生きる社会をめざして」				
c. 学習方法	教科書・現代社会ワークノート・資料集等を用いて現代社会の現状と諸問題を考えさせる。				
d. 評価方法	定期考査・現代社会ワークノート・主体的な学習への取り組み・出席状況				
e. 使用教材	教科書 東京書籍「現代社会313」 東京書籍「現代社会ワークノート」				
f. その他					

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	留意事項
4	第2部現代の社会と人間 第2章 「日本国憲法と 民主政治」 1 民主政治とは	①民主政治の成立 ②基本的人権の確立 ③世界の政治体制	3 3 3	○民主主義の人権保障・権力分立・法の支配など、近代民主主義の原理について理解する。 ○議院内閣制と大統領制を三権相互の関係等の視点から理解するとともに、社会主義国の政治体制について理解する。	入学式
	2 日本国憲法の 基本原理	①日本国憲法と三つの原理 ②③基本的人権の保障(1)(2) ④新しい人権と人権保障の進展 ⑤平和主義と安全保障	3 3 3	○日本国憲法成立の経緯とその基本的原理について学び、基本的人権の内容を理解する。 ○憲法第9条に書かれている平和主義の精神、自衛隊のあり方について理解する	中間考査
	3 日本の政治機構	①国会と立法 ②内閣と行政 ③裁判所と司法 ④地方自治	3 3	○国会・内閣・裁判所のしくみと役割、諸課題について理解する。 ○地方公共団体の仕事やその課題、さらに地域社会の変化の内容を理解する。	期末考査
	4 現代政治の 特質と課題	①選挙のしくみと課題 ②政党と利益集団 ③世論と政治参加	3 3 3	○民主政治における選挙について、選挙制度、それらをめぐる課題について理解する。	
7	第3章 「現代社会と法」	①法の働き ②社会生活と法 ③司法と人権	3 3 3	○法の支配の意味について理解する。 ○社会生活における法の意義、経済生活や紛争の調整と解決に果たす法の役割を理解する。 ○裁判員制度、司法制度改革について理解する。	終業式
	第4章 「現代の経済と 国民福祉」 1 経済のしくみ	①経済社会の変容 ②現代の企業	3	○資本主義経済の成立とその変容過程、また社会主義思想について理解する。 ○企業の働きとしくみ、社会的責任について理解する。	始業式
9		③市場経済のしくみ ④国民所得～⑤金融のしくみ～ ⑥中央銀行の役割と金融自由化 ⑦政府の役割と財政	3 3 3 3	○市場経済のしくみや価格のメカニズムのしくみについて理解する。 ○金融、財政のしくみと役割、直面している課題について理解する。	
	2 変化する日本経済	①戦後復興と～②産業構造の～ ③バブル後の日本経済 ④中小企業と農業	3 3 3	○現代経済の変容とその諸問題を戦後日本の経済発展の流れから理解する。 ○豊かな社会の実現をめざしての取り組みと成果、直面している課題について理解する。	中間考査
	3 豊かな生活の実現	①自立した消費者～⑤環境保全	3		
11	第5章 「国際社会と 人類の課題」 1 国際政治のしくみと動向	①国際社会の特質 ②国際紛争を避けるしくみ ③国際連合と～④国際連合の～ ⑤冷戦と～⑤軍縮への取り組み	3 3 3 3	○国際政治のしくみと動向を学び、国際連合の意義と諸活動、国際平和の実現にむけての取り組みと成果、諸課題について理解する。	期末考査
	2 国際経済のしくみと動向	①貿易と国際分業②国際為替～ ③戦後国際経済～④対立と強調～ ⑤グローバル化する経済	3 3 3	○国際経済のしくみについて学び、今日のグローバル化がもたらす功罪について考える。	終業式
	3 国際社会の現状と課題	①地域統合～②変容する～ ③国際的な格差是正 ④地域紛争～⑤国境～ ⑥日本の役割	3 3 3	○国際社会の現状と抱えている課題について学び、日本が果たすべき役割を考える。	始業式
2	第1章 「青年期と自己形成の課題」 1 現代社会と 青年の生き方	①現代社会と青年の生き方 ②青年期の発達課題 ③自己形成と社会とのかかわり ④進路と生きがいの創造	3 3 3 3	○現代社会に生きる青年として、青年期の特質と課題について理解する。	期末考査
	2 よりよく生きる ことを求めて	①哲学～⑦外来思想の受容と～	3	○現代社会の特質と問題点について、哲学的な考え方や科学的な考え方を通して理解する。 ○現代社会の抱える諸問題について様々な観点から考え、自分自身の問題として理解する。	卒業式
3	第1部「わたしたちの生きる社会」 第3部「ともに生きる社会をめざして」		3 3		

教科名	数学	科目名	数学 I	単位数	4 単位
対象学年	第1学年 特別進学 α コース 特別進学 β コース	履修形態	必修	授業形態	学級単位/ 一斉授業
科目の目標	大学センター入試で7割以上を点数できるように指導し、科目の総合的理解を図るとともに、個別学力試験に通用する十分な基礎力をつける。				
学習内容の概要	文字式の計算、実数、1次不等式、集合と命題について学ぶ(数と式)。関数とグラフの関係、2次関数のさまざまな特徴を調べ、関連して2次方程式・不等式について学ぶ(2次関数)。三角比について学び、図形の性質を量的に調べる。データの分析について学ぶ。				
学習方法	教科書の内容を中心に学習し、問題集で反復演習を行い、入試問題を用いて実戦演習を行う。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点20点は授業態度・意欲・提出物の状況・理解度の4項目各5点で評価する。				
使用教材	α コース 教科書 詳説数学 I 改訂版(啓林館) 問題集 マスグレード改訂版数学 I A(啓林館) β コース 教科書 数学 I 改訂版(啓林館) 問題集 アドバンス数学 I A改訂版(啓林館)				
その他	α コースは平日の課外学習(80分)で、授業を終えた範囲の演習、3週に2回の土曜講習(90分)で同様の演習を行う。				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時 間	学 習 の ポ イ ン ト	主 な 学 校 行 事
4	数と式	式の計算	4 4 4	整式 整式の加法と減法および乗法 因数分解	始業式
5		実数 1次不等式 集合と命題	4 4 4	実数 根号を含む式の計算 1次不等式 1次不等式の利用 集合、命題と条件	中間考査
6	2次関数		4 4 4 4	命題と証明 関数とグラフ 2次関数のグラフ 2次関数の最大と最小	期末考査
7			4 4 4	問題演習	終業式 夏期講習
8			4 4 4 4	2次関数の決定	始業式
9		2次方程式と2次不等式	4 4 4 4	2次方程式	
10			4 4 4 4	グラフと2次方程式 グラフと2次不等式	中間考査
11	図形と計量	三角比	4 4 4 4	問題演習 三角比 三角比の相互関係	期末考査
12			4 4 4	三角比の拡張	終業式
1			4 4 4 4	正弦定理・余弦定理 正弦定理と余弦定理の応用 三角形の面積	始業式
2	データの分析	データの分析	4 4 4 4	データの代表値 データの散らばりと四分位 分散と標準偏差	期末考査
3			4 4 4	データの相関 表計算ソフトによるデータの分析	終業式

教科名	数学	科目名	数学 I	単位数	4 単位
対象学年	第1学年 進学コース	履修形態	必修	授業形態	学級単位/ 一斉授業
科目の目標	大学センター入試で7割以上を点数できるように指導し、科目の総合的理解を図るとともに、個別学力試験に通用する十分な基礎力をつける。				
学習内容の概要	文字式の計算、実数、1次不等式、集合と命題について学ぶ(数と式)。関数とグラフの関係、2次関数のさまざまな特徴を調べ、関連して2次方程式・不等式について学ぶ(2次関数)。三角比について学び、図形の性質を量的に調べる。データの分析について学ぶ。				
学習方法	教科書の内容を中心に学習し、問題集で反復演習を行い、入試問題を用いて実戦演習を行う。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点20点は授業態度・意欲・提出物の状況・理解度の4項目各5点で評価する。				
使用教材	教科書 改訂版新編数学 I (啓林館) 問題集アベレージ改訂版数学 I A (啓林館)				
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	数と式	式の計算	4 4 4	整式 整式の加法と減法および乗法 因数分解	始業式
5		実数 1次不等式 集合と命題	4 4 4	実数 根号を含む式の計算 1次不等式 1次不等式の利用 集合、命題と条件	中間考査
6	2次関数		4 4 4 4	命題と証明 関数とグラフ 2次関数のグラフ 2次関数の最大と最小	期末考査
7			4 4 4	問題演習	終業式 夏期講習
8			4	2次関数の決定	始業式
9		2次方程式と2次不等式	4 4 4 4	2次方程式	
10			4 4 4 4	グラフと2次方程式 グラフと2次不等式	中間考査
11	図形と計量	三角比	4 4 4 4	問題演習 三角比 三角比の相互関係	期末考査
12			4 4 4	三角比の拡張	終業式
1			4 4 4	正弦定理・余弦定理 正弦定理と余弦定理の応用 三角形の面積	始業式
2	データの分析	データの分析	4 4 4 4	データの代表値 データの散らばりと四分位 分散と標準偏差	期末考査
3			4 4 4	データの相関 表計算ソフトによるデータの分析	終業式

教科名	数学	科目名	数学 I	単位数	3 単位
対象学年	第1学年 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	学級単位/ 一斉授業
科目の目標	進学や就職など多岐にわたる進路希望に対応し、社会生活を送る上で必要となる数学的思考方と基礎的な知識の習得および技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識できるようにする。				
学習内容の概要	文字式の計算、実数、1次不等式、集合と命題について学ぶ(数と式)。関数とグラフの関係、2次関数のさまざまな特徴を調べ、関連して2次方程式・不等式について学ぶ(2次関数)。三角比について学び、図形の性質を量的に調べ、さらに相似な図形の面積比や体積比について学ぶ(図形と計量)。データの分析について学ぶ。				
学習方法	中学校時代までの内容をもう一度きちんと理解させる。 教科書の内容を講義し、その理解を図る。練習問題、教科書傍用問題集の家庭学習を促すことにより、教科書の内容の理解を深めるとともに、計算力の向上と問題解法についての習熟を図る。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。 平常点20点は授業態度・意欲・提出物の状況・理解度の4項目各5点で評価する。 評価については、観点別評価を踏まえるものとする。				
使用教材	教科書 改訂版最新数学 I (数研) 問題集 ブラクティスノート数学 I (数研)				
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	数と式	式の計算	3 3 3	整式 整式の加法と減法および乗法 因数分解	始業式
5		実数 1次不等式 集合と命題	3 3 3	実数 根号を含む式の計算 1次不等式 1次不等式の利用 集合、命題と条件	中間考査
6	2次関数		3 3 3 3	命題と証明 関数とグラフ 2次関数のグラフ 2次関数の最大と最小	期末考査
7			3 3 3	問題演習	終業式 夏期講習
8			3	2次関数の決定	始業式
9		2次方程式と2次不等式	3 3 3 3	2次方程式	
10			3 3 3 3	グラフと2次方程式 グラフと2次不等式	中間考査
11	図形と計量	三角比	3 3 3 3	問題演習 三角比 三角比の相互関係	期末考査
12			3 3 3	三角比の拡張	終業式
1			3 3 3	正弦定理・余弦定理 正弦定理と余弦定理の応用 三角形の面積	始業式
2	データの分析	データの分析	3 3 3 3	データの代表値 データの散らばりと四分位 分散と標準偏差	期末考査
3			3 3 3	データの相関 表計算ソフトによるデータの分析	終業式

教科名	数学	科目名	数学A	単位数	2 単位
対象学年	第1学年 特別進学 α コース 特別進学 β コース	履修形態	必修	授業形態	学級単位/ 一斉授業
科目の目標	大学センター入試で7割以上を点数できるように指導し、科目の総合的理解を図るとともに、個別学力試験に通用する十分な基礎力をつける。				
学習内容の概要	集合の基礎、順列・組み合わせについて学んだ後、確率の考え方を学ぶ(場合の数と確率)。三角形や円など平面図形の性質について学び、論証の方法を身につける(平面図形)。約数と倍数、ユークリッドの互除法、整数の性質について学ぶ(整数の性質)。				
学習方法	教科書の内容を中心に問題集で反復演習を行い、入試問題を用いて実戦演習を行う。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点20点は授業態度・意欲・提出物の状況・理解度の4項目各5点で評価する。				
使用教材	α コース 教科書 詳説数学A改訂版(啓林館) 問題集 マスグレード改訂版数学 I A(啓林館) β コース 教科書 数学A改訂版(啓林館) 問題集 アドバンス数学 I A改訂版(啓林館)				
その他	α コースは平日の課外学習(80分)で、授業を終えた範囲の演習、3週に2回の土曜講習(90分)で同様の演習を行う。				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	場合の数と確率	場合の数	2 2 2	集合 集合の要素の個数 場合の数 順列 円順列・重複順列	始業式 入学式 新入生合宿
5			2 2	順列 円順列・重複順列 組合せ	中間考査
6		確率	2 2 2 2	事象と確率 確率の基本性質 独立な試行の確率	期末考査
7			2 2 2	反復試行の確率	終業式 夏期講習・夏期合宿
8	図形の性質	平面図形	2	三角形の辺の比 三角形の三心	夏期後期講習 始業式
9			2 2 2 2	チェバの定理、メネラウスの定理 円に内接する四角形 円と直線	
10	図形の性質	平面図形	2 2 2	方べきの定理	中間考査
11		空間図形	2 2 2 2	2つの円の位置関係 作図 直線と平面多面体	
12	整数の性質	約数と倍数	2 2 2	約数と倍数 最大公約数と最小公倍数	期末考査 終業式
1	整数の性質	ユークリッドの互除法	2 2 2	整数の割り算と商および余り ユークリッドの互除法	始業式
2		整数の性質の活用	2 2 2 2	1次不定方程式 n進法 分数と小数	期末考査
3			2 2 2	問題演習	終業式

教科名	数学	科目名	数学A	単位数	2 単位
対象学年	第1学年 進学コース	履修形態	必修	授業形態	学級単位/ 一斉授業
科目の目標	大学センター入試で7割以上を得点できるように指導し、科目の総合的理解を図るとともに、個別学力試験に通用する十分な基礎力をつける。				
学習内容の概要	集合の基礎、順列・組み合わせについて学んだ後、確率の考え方を学ぶ(場合の数と確率)。三角形や円など平面図形の性質について学び、論証の方法を身につける(平面図形)。約数と倍数、ユークリッドの互除法、整数の性質について学ぶ(整数の性質)。				
学習方法	教科書の内容を中心に問題集で反復演習を行い、入試問題を用いて実戦演習を行う。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点20点は授業態度・意欲・提出物の状況・理解度の4項目各5点で評価する。				
使用教材	教科書 改訂版新編数学A(啓林館) 問題集アベレージ改訂版数学 I A(啓林館)				
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	場合の数と確率	場合の数	2 2 2	集合 集合の要素の個数 場合の数 順列 円順列・重複順列	始業式 入学式
5			2 2 2	順列 円順列・重複順列 組合せ	中間考査
6		確率	2 2 2 2	事象と確率 確率の基本性質 独立な試行の確率	期末考査
7			2 2 2	反復試行の確率	終業式 夏期講習
8	図形の性質	平面図形	2	三角形の辺の比 三角形の三心	始業式
9			2 2 2 2	チェバの定理、メネラウスの定理 円に内接する四角形 円と直線	
10	図形の性質	平面図形	2 2 2 2	方べきの定理	中間考査
11		空間図形	2 2 2 2	2つの円の位置関係 作図 直線と平面多面体	
12	整数の性質	約数と倍数	2 2 2	約数と倍数 最大公約数と最小公倍数	期末考査 終業式
1	整数の性質	ユークリッドの互除法	2 2 2	整数の割り算と商および余り ユークリッドの互除法	始業式
2		整数の性質の活用	2 2 2 2	1次不定方程式 n進法 分数と小数	期末考査
3			2 2 2	問題演習	終業式

教科名	数学	科目名	数学A	単位数	2 単位
対象学年	第1学年 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	学級単位/ 一斉授業
科目の目標	進学や就職など多岐にわたる進路希望に対応し、社会生活を送る上で必要となる数学的思考方と基礎的な知識の習得および技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識できるようにする。				
学習内容の概要	集合の基礎、順列・組み合わせについて学んだ後、確率の考え方を学ぶ(場合の数と確率)。三角形や円など平面図形の性質について学び、論証の方法を身につける(平面図形)。約数と倍数、ユークリッドの互除法、整数の性質について学ぶ(整数の性質)。				
学習方法	教科書の内容を中心に問題集で反復演習を行い、入試問題を用いて実戦演習を行う。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点20点は授業態度・意欲・提出物の状況・理解度の4項目各5点で評価する。				
使用教材	教科書 改訂版最新数学A(数研) 問題集 プラクティスノート数学A(数研)				
その他					

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	場合の数と確率	場合の数	2 2 2	集合 集合の要素の個数 場合の数 順列 円順列・重複順列	始業式 入学式
5			2 2 2	順列 円順列・重複順列 組合せ	中間考査
6		確率	2 2 2 2	事象と確率 確率の基本性質 独立な試行の確率	期末考査
7			2 2 2	反復試行の確率	終業式 夏期講習
8	図形の性質	平面図形	2	三角形の辺の比 三角形の三心	始業式
9			2 2 2 2	チェバの定理、メネラウスの定理 円に内接する四角形 円と直線	
10	図形の性質	平面図形	2 2 2 2	方べきの定理	中間考査
11		空間図形	2 2 2 2	2つの円の位置関係 作図 直線と平面多面体	
12	整数の性質	約数と倍数	2 2 2	約数と倍数 最大公約数と最小公倍数	期末考査 終業式
1	整数の性質	ユークリッドの互除法	2 2 2	整数の割り算と商および余り ユークリッドの互除法	始業式
2		整数の性質の活用	2 2 2 2	1次不定方程式 n進法 分数と小数	期末考査
3			2 2 2	問題演習	終業式

教科名	理科	科目名	化学基礎	単位数	2 単位
対象学年	第 1 学年 普通科特別進学コース	履修形態	必修	授業形態	単 独
科目の目標	自然の事物・現象について、化学的に考察する能力と態度を身に付けさせる。				
学習内容の概要	自然界における現象が基本的な原理・法則に基づいていることを理解させる。				
学習方法	実験や視聴覚教材を利用しながら、教科書の内容を理解させる。				
評価の観点 ・評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。 平常点20点は授業態度・意欲・提出物の状況等で評価する。				
使用教材	数研出版「改訂版新編化学基礎」 数研出版「三訂版 リードLightノート 化学基礎」				
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	序章 化学と人間生活		6	高校で学ぶ教科における化学の位置づけと化学を学ぶ意味や勉強の仕方について説明する。	始業式
	物質の構成と化学結合	1 混合物と純物質 2 物質とその成分 3 物質の三態と熱運動	6	物質の分類と、元素について理解する。状態変化と化学変化の違いを学び、温度の本質についてもふれる。	
5	物質の構成粒子	1 原子とその構造 2 イオン 3 元素の周期表	7	物質を構成する原子について学び、それから生じるイオンや周期性について理解する。	中間考査
	粒子の結合	1 イオン結合とイオンからなる物質 2 分子と共有結合 3 共有結合結晶 4 金属結合と金属	14	原子やイオンがどのような力によって結合し物質を作り出しているのかを理解する。また、化学結合に関係する価電子の役割について考える。	期末考査
7					終業式
8	物質と化学反応式	1 原子量・分子量・式量 2 物質質量 3 溶液の濃度 4 化学反応式と物質質量	12	物質の量を表す物質質量について学習し、簡単な計算ができるようにする。化学反応式が表す意味と物質質量の関係を学習し、化学変化の量的関係について理解し計算できるようにする。化学反応におけるモル濃度の有用性を学習し、質量%濃度との関係を理解する。	始業式
9					
10	酸と塩基の反応	1 酸・塩基 2 水の電離と水溶液のpH 3 中和反応 4 塩	18	酸と塩基の基本的知識を復習し、水素イオンによる新しい酸・塩基の定義を学習する。水素イオンの濃度により酸・塩基の強さを表すpHについて理解する。中和反応のしくみを理解し、その量的関係について計算できるようにする。	中間考査
11					期末考査
12					終業式
1	酸化還元反応	1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 金属の酸化還元反応 4 酸化還元反応の利用	20	酸化還元反応を再定義し、電子移動反応として、統一的に理解させる。また、金属元素の反応を酸化還元の見点から考えさせ、電池や電気分解の原理を理解し、その量的関係について計算できるようにする。	始業式
2					期末考査
3					終業式

教科名	理科	科目名	化学基礎	単位数	2 単 位
対象学年	第 1 学 年 普通科進学コース	履修形態	必修	授業形態	単 独
科目の目標	自然の事物・現象について、化学的に考察する能力と態度を身に付けさせる。				
学習内容の概要	自然界における現象が基本的な原理・法則に基づいていることを理解させる。				
学習方法	実験や視聴覚教材を利用しながら、教科書の内容を理解させる。				
評価の観点 ・評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。 平常点20点は授業態度・意欲・提出物の状況等で評価する。				
使用教材	数研出版「改訂版新編化学基礎」 数研出版「三訂版 リードLightノート 化学基礎」				
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	序章 化学と人間生活		6	高校で学ぶ教科における化学の位置づけと化学を学ぶ意味や勉強の仕方について説明する。	始業式
	物質の構成と化学結合	1 混合物と純物質 2 物質とその成分 3 物質の三態と熱運動	6	物質の分類と、元素について理解する。状態変化と化学変化の違いを学び、温度の本質についてもふれる。	
5	物質の構成粒子	1 原子とその構造 2 イオン 3 元素の周期表	7	物質を構成する原子について学び、それから生じるイオンや周期性について理解する。	中間考査
	粒子の結合	1 イオン結合とイオンからなる物質 2 分子と共有結合 3 共有結合結晶 4 金属結合と金属	14	原子やイオンがどのような力によって結合し物質を作り出しているのかを理解する。また、化学結合に関する価電子の役割について考える。	期末考査
7					終業式
8	物質の量と化学反応式	1 原子量・分子量・式量 2 物質の量 3 溶液の濃度 4 化学反応式と物質の量	12	物質の量を表す物質質量について学習し、簡単な計算ができるようにする。化学反応式が表す意味と物質質量の関係を学習し、化学変化の量的関係について理解し計算できるようにする。化学反応におけるモル濃度の有用性を学習し、質量%濃度との関係を理解する。	始業式
9					
10	酸と塩基の反応	1 酸・塩基 2 水の電離と水溶液のpH 3 中和反応 4 塩	18	酸と塩基の基本的知識を復習し、水素イオンによる新しい酸・塩基の定義を学習する。水素イオンの濃度により酸・塩基の強さを表すpHについて理解する。中和反応のしくみを理解し、その量的関係について計算できるようにする。	中間考査
11					期末考査
12					終業式
1	酸化還元反応	1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 金属の酸化還元反応 4 酸化還元反応の利用	20	酸化還元反応を再定義し、電子移動反応として、統一的に理解させる。また、金属元素の反応を酸化還元の見点から考えさせ、電池や電気分解の原理を理解し、その量的関係について計算できるようにする。	始業式
2					期末考査
3					終業式

教科名	理科	科目名	地学基礎	単位数	2単位
対象学年	第1学年 特別進学α・β	履修形態	必修	授業形態	合併
科目の目標	日常生活や社会と関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要	宇宙の誕生と現在の宇宙の姿、惑星としての地球を理解する(第1、6編)。プレート運動の理解を通し、活動的な地球の姿を認識する(第2編)。大気の構造と地球全体の熱収支や大気・海水の循環について学ぶ(第3編)。地球環境や生物の変遷を学ぶ(第4編)。自然環境が人間生活とかかわっていることを学ぶ(第5編)。				
学習方法	教材を利用し教科書の内容を理解するとともに、問題集を用いて実戦演習を行う。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。 平常点20点は授業態度・意欲・提出物の状況等で評価する。				
使用教材	数研出版「地学基礎」、数研出版「リードlightノート地学基礎」				
その他	長期休暇の講習等では、授業を進める場合もある。				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	惑星としての地球	太陽系の中の地球 地球の形と大きさ 地球の構造	10	地球の特徴や、地球の誕生について学ぶ。 地球の大きさに対するスケールを理解する。 固体地球の層構造や構成物質の化学組成を学ぶ。	始業式
5					中間考査
6	活動する地球	プレートの運動とそれに伴う現象 火山	18	プレートの運動について学ぶ。火山活動と地震活動が総合的に一つの仮説にまとめられることについてふれる。マグマの性質と火山の噴火形式と火山地形の関係を理解する。	期末考査
7					終業式
8					始業式
9	活動する地球	地震と地殻変動	10	プレートの沈み込み地帯で起こる地震現象を理解する。それに伴う変動地形と変成作用まで言及する。	
10					中間考査
11	大気と海洋	地球の熱収支 大気と海水の運動	16	大気圏の構造とともに、太陽の放射エネルギーによる地球の熱収支について理解する。 太陽の放射エネルギーや海洋が熱収支のバランスにとって重要であることを理解する。	期末考査
12					終業式
	移り変わる地球	地層の形成 古生物の変遷と地球環境	8	地層の重なりや変形のしくみや、地球と生命の関係の理解を深める。	始業式
1	宇宙の構成	太陽と恒星 宇宙のすがた	14	太陽の活動のようすなどについて学ぶ。また、恒星の性質を分析する方法や恒星の進化の過程や時間的なスケールを理解する。ビッグバンによる宇宙の誕生を理解し、宇宙の構造を知る。	
2					期末考査
3	地球の環境	環境と人間 日本の自然環境	6	日本の自然環境の特徴を知るとともに、そこで起こっている災害を理解する。	終業式

教科名	理科	科目名	地学基礎	単位数	2単位
対象学年	第1学年 普通科進学コース・総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	単独
科目の目標	自然科学の地学分野における一般的な教養を身に付けさせることを目標とする。				
学習内容の概要	地球を取り巻く自然環境と地球が属する太陽系または宇宙について考察する能力と態度を身に付けさせる。				
学習方法	教科書に沿って進め、視聴覚教材を利用しながら、教科書の内容を理解させる。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。 平常点20点は授業態度・意欲・提出物の状況等で評価する。				
使用教材	第一学習社「改訂地学基礎」、第一学習社「改訂ネオパルノート 地学基礎」				
その他	生徒の進路や習熟度に応じて宿題提出をさせる。				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	第1章 宇宙における地球	第1節 宇宙の構成 1.宇宙の始まり 2.宇宙の広がりと銀河の分布	14	<ul style="list-style-type: none"> 宇宙の始まりを学習し、ビッグバンや宇宙の暗れ上がりについて理解する。 宇宙をつくる元素について、地学的に探究する方法を習得し、科学的な問題解決能力を身に付ける。 宇宙の広がりと銀河の分布を学習し、宇宙の大規模構造について理解する。 太陽のエネルギー源や太陽の表面現象について学習し、太陽の構造について理解する。 木星型惑星の特徴について学習する。 惑星・衛星以外の天体の特徴について学習する。 地球に生命が存在する条件について学習する。 原始地球の誕生過程や原始地球の進化について理解する。 太陽のスペクトルについて学習し、太陽の組成について理解する。 誕生から終末までの太陽の一生について学習し、進化の過程で炭素や酸素が生成されることを理解する。 太陽系の構造と誕生について学習し、太陽系がどのように形成されたのかを理解する。 地球型惑星および月のそれぞれの特徴について学習する。 	始業式
5		第2節 太陽 1.太陽の構造 2.太陽の組成 3.太陽の誕生と将来			中間考査
6		第3節 太陽系の中の地球 1.太陽系の構造 2.太陽系の誕生 3.地球型惑星① 4.地球型惑星② 5.木星型惑星 6.惑星・衛星以外の天体 7.生命の惑星・地球			期末考査
7	第2章 活動する地球	第1節 地球の姿 1.地球の形と大きさの測定 2.地球の形と大きさ 3.地球の内部構造 4.地球の構成物質 5.プレートの運動 6.プレートの収束と造山運動	18	<ul style="list-style-type: none"> 地球の形や大きさについて、エラトステネスの測定方法やフランス学士院の測定方法を学習する。 地球の形や大きさについて学習する。 地球の層構造を学習し、表面と内部の性質の違いを理解する。 地殻や核を構成する物質の違いについて学習し、理解する。 プレートとプレートの動き、トランスフォーム断層、プレートテクトニクスについて理解する。 造山帯の形成と付加体について学習する。・超大陸の変遷と大陸移動について学習する。 世界および日本の火山の分布について学習する。・火山帯でのマグマの発生について学習する。 火山の形と噴火の様式について学習する。 火成岩は、産状によって鉱物の形や組織が異なることを理解する。 火成岩のおもな造岩鉱物の特徴を学習し、火成岩の分類について理解する。 地震のおこるしくみと震源断層の規模と位置について学習する。 地震波や震源の決定方法について学習する。 世界および日本の地震の分布について学習する。 日本付近で発生する地震の種類について学習する。 	始業式
8		第2節 火山活動と地震 1.火山の分布 2.火山の地形 3.火山の噴火と火成岩 4.火成岩の種類 5.地震が発生するしくみ 6.地震の動き 7.地震の発生する地域			中間考査
9		第1節 地層や岩石と地質構造 1.地層の形成 2.地層と堆積構造 3.堆積岩 4.地殻の変動 5.変成岩			18
10	第3章 移り変わる地球	第2節 地球環境と生物界の変遷 1.化石 2.地層の対比と固定 3.地質時代とその区分 4.先カンブリア時代① 5.先カンブリア時代② 6.古生代① 7.古生代② 8.中生代 9.新生代① 10.新生代②	14	<ul style="list-style-type: none"> 大気の組成、大気の圧力、大気圏の構造を学習する。 大気中の水、雲の発生について理解する。 太陽放射と地球放射について理解する。 大気のエネルギー収支を理解し、大気の温室効果について考察する。 緯度によるエネルギー収支を学習し、大気の大循環について理解する。 風がおこるしくみについて理解する。 大気の大循環について理解する。 海水の組成と温度について学習し、海洋の層構造を理解する。 海洋表層の循環と鉛直方向の循環について学習する。 水の循環による大気と海洋の相互作用、熱の南北輸送について学習する。 大気の大循環について、地学的に探究する方法を習得し、科学的な問題解決能力を身に付ける。 	始業式
11		第1節 地球の熱収支 1.大気の構成 2.大気圏の特徴 3.対流圏における水の変化 4.太陽放射と地球放射 5.地球のエネルギー平衡			期末考査
12		第2節 大気と海洋の運動 1.緯度によるエネルギーの収支 2.風 3.大気の大循環 4.海洋の構造 5.海洋の大循環 6.大気と海洋の密接な関係			終業式
1	第4章 大気と海洋	第1節 地球環境の科学 1.地球温暖化① 2.地球温暖化② 3.オゾン層の破壊 4.エルニーニョ現象とラニーニャ現象	14	<ul style="list-style-type: none"> 地球の温暖化について学習する。 オゾン層の破壊について学習する。 エルニーニョ現象とラニーニャ現象について理解する。 自然エネルギーの利用や水資源について理解する。 気団や日本の天気の特徴を理解する。 日本の気象災害とその防災について学習する。 日本の地震災害とその防災について学習する。 日本の火山災害とその防災について学習する。 	始業式
2		第2節 日本の自然環境 1.自然の恩恵 2.季節の変化 3.気象災害と防災 4.地震災害 5.地震による被害の軽減 6.火山災害と防災			期末考査
3					

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2 単位
対象学年	第1学年 普通科男子	履修形態	必修	授業形態	合併クラス単位
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	運動やスポーツの基礎・基本や安全について、しっかり学習し、自分で計画、工夫していける能力を高める。				
学習方法	陸上・マット運動・サッカーを通して、グループ活動の中で協調性を養う事で、関心や意欲を高めるとともに互いに協力して運動ができるようにする。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、1学期・2学期・3学期とも実技試験と平常点で評価する。平常点20点は授業態度や意欲、出席点で評価する。				
使用教材					
その他					

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事	
4	陸上	跳躍	2 2 2	自己の能力に応じた課題を 目指し計画的な練習の仕方を 工夫する。	始業式	
5		投てき	2 2 2		中間考査	
6		競走	2 2 2		期末考査	
7		跳躍・投てき・競走	2 2 2		測定。	終業式 夏期補習
8	マット運動	説明、グループ分け、目標設定	2	自己の能力に応じた目標を立てる。	始業式	
9		柔軟運動、筋力トレーニング 柔軟運動、筋力トレーニング バランス系、ジャンプ系	2 2 2		体の各部分を自分の意志で 動かせるようにする。	学校祭
10		倒立 評価 前転、後転	2 2 2		マット運動において基礎となる 技術の習得を目指す。	中間考査
11		評価 側方倒立回転 評価	2 2 2			期末考査
12	サッカー	パス	2 2 2	パスの種類を覚える。 正しいパスの仕方を学ぶ。 ルールを学ぶ。	終業式	
1		ドリブルシュート	2 2 2		ドリブルとシュートのタイミング に注意しながら練習する。	始業式
2		ゲーム	2 2 2		協調性を高める学習をする。	入試 期末考査
3			2 2 2			終業式

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2 単位
対象学年	第1学年 普通科女子	履修形態	必修	授業形態	合併クラス単位
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	運動やスポーツの基礎・基本や安全について、しっかり学習し、自分で計画、工夫していける能力を高める。				
学習方法	陸上・創作ダンス・バスケットボールを通して、グループ活動の中で協調性を養う事で、関心や意欲を高めるとともに互いに協力して運動ができるようにする。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、1学期・2学期・3学期とも実技試験と平常点で評価する。平常点20点は授業態度や意欲、出席点で評価する。				
使用教材					
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時 間	学 習 の ポ イ ン ト	主 な 学 校 行 事		
4	陸上	跳躍	2 2 2	自己の能力に応じた課題を 目指し計画的な練習の仕方を 工夫する。	始業式		
5		投てき	2 2 2		中間考査		
6		競走	2 2 2		期末考査		
7		跳躍・投てき・競走	2 2 2		測定。	終業式 夏期補習	
8		創作ダンス	班作り・曲選び		2	グループで話し合いをする。	始業式
9			ダンス作成・練習 中間発表		2 2 2	互いに協力して作成・練習する。 6時間に1回発表。少しずつでも 進めていく努力をする。	学校祭 中間考査
10			ダンス作成・練習 中間発表		2 2 2	互いに協力して作成・練習する。 6時間に1回発表。少しずつでも 進めていく努力をする。	期末考査
11	ダンス作成・練習 最終発表		2 2 2	互いに協力して作成・練習する。			
12	バス		2 2 2	パスの種類を覚える。 正しいパスの仕方を学ぶ。	終業式		
1	バスケットボール	ドリブルシュート	2 2 2	ドリブルとシュートのタイミング に注意しながら練習する。	始業式		
2		ゲーム	2 2 2	協調性を高める学習をする。	入試 期末考査		
3			2 2 2		終業式		

教科名	保健体育	科目名	保健	単位数	1 単位
対象学年	第1学年 普通科	履修形態	必修	授業形態	学級単位
科目の目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	わが国の健康について考え、健康を保持増進し、正しい生活行動を選び実践する事や環境を改善していく努力の重要性を理解できるようにする。				
学習方法	各項目を通して学ぶ事によって関心や意欲を高める。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、1学期・2学期・3学期とも筆記試験と平常点で評価する。平常点30点は授業態度や意欲、出席点で評価する。				
使用教材	VTR(喫煙と健康。飲酒と健康。感染症とエイズ。私達の健康とヘルスプロモーション)				
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時 間	学 習 の ポ イ ン ト	主 な 学 校 行 事
4	喫煙と健康	喫煙の健康影響 非喫煙者が受ける健康影響 喫煙にたいする対策	1 1 1	喫煙の問題をさまざまな角度から考え、どのような対策が必要か学ぶ。	始業式
5	わたしたちの健康のすがた	わが国における健康水準の向上 わが国における健康問題の変化	1 1 1	どのように健康水準が向上したか学ぶ。	中間考査
6	健康のとらえ方	健康についてのさまざまな考、健康の成り立ちと健康増進する方法	1 1 1	健康とはどういう状態か学ぶ。	期末考査
7	さまざまな保健活動や対策	わが国や世界における健康のための活動(ビデオも見せる) ヘルスプロモーションにもとづく活動(ビデオも見せる)	1 1 1	どのような保健活動や対策があるのか学ぶ。	
8		健康の基本	1		始業式
9	生活習慣病と日常生活行動	生活習慣病	1 1 1	健康的な生活習慣とは何か学ぶ。	学校祭
10	飲酒と健康	アルコールの作用 長期飲酒の健康影響 飲酒にたいする対策	1 1 1	アルコールの問題をさまざまな角度から考え、どのような対策が必要か学ぶ。	中間考査
11	薬物乱用と健康	薬物乱用の健康影響 薬物乱用が引き起こす社会問題。薬物乱用に対する対策	1 1 1	薬物乱用の問題をさまざまな角度から考え、どのような対策が必要か学ぶ。	期末考査
12		飲酒のビデオを見る 喫煙のビデオを見る	1 1 1		終業式
1	医薬品と健康	医薬品の役割 医薬品の使い方 医薬品の安全性のための予防	1 1 1	医薬品を正しくつかうためのポイントを学ぶ。	始業式
2	感染症とその予防	今日、注意すべき感染症 新たな感染症問題とその予防対策	1 1 1	新たな感染症問題の防止のため自分のやれる事、社会がすべき事を学ぶ。	入試 期末考査
3	エイズとその予防	全人類の課題 エイズへの対策 エイズとその予防のビデオ	1 1 1	エイズの実態について日本、世界の状態を学ぶ。	終業式

教科名	芸術	科目名	書道 I	単位数	2単位
対象学年	第1学年 普通科 全クラス	履修形態	必修	授業形態	一斉授業
科目の目標	書道の幅広い活動を通し、書を愛好する心情を育てるとともに 感性を豊かにし、基礎的な能力を伸ばし、表現と鑑賞の能力を高める。				
学習内容の概要	基本的な練習の中に コンクール、硬筆書写検定などを取り入れ、幅広い体験を目指す。				
学習方法	生徒の個性が活きるように個々のレベル、関心に応じて 添削時の一対一の会話、ふれあいを重視し定着を図る。				
評価の観点・ 評価方法	書への関心、意欲、態度、発想や創造的な表現の技能・能力などを勘案したものであるように配慮する。 規定に従い、1学期・2学期・3学期とも考查点と平常点と出欠点で評価する。(定期考查は行わないので、毎回清書を 考查とみなす。) 書道の場合、平常点を重視したい。				
使用教材	教育図書 書 I				
その他	伯耆大山駅へ展示協力				

年 間 授 業 計 画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	書へのいざない	◎書写から芸術への導入 姿勢・執筆法の基本	6	書写から芸術への導入。 道具の扱いについて 臨書について (運筆のリズム、濃淡、潤滑など)	始業式
5	楷書	◎九成宮禮泉銘 ◎孔子廟堂碑	6	作品の生まれた背景、風土、民族性、個性など筆者と作品について考える。基本的な用筆を学びながら様々な書風を理解する。	中間考查
6	楷書	◎雁塔聖教序 ◎顔氏家廟碑 ◎牛橛造像記	8	基本的な用筆を学びながら様々な書風を理解する。 幅広い表現を学び、伝統に根ざした技法を習得する。 (造像記は出来ないクラスもある) (その場合は鑑賞、説明のみ)	期末考查
7	創作	◎命名を書いてみよう ◎漢字かな交じり書	6	今まで習ってきた古典の特徴を生かして書いてみる。 鑑賞、イメージと表現	終業式
8	コンクール参加	◎競書大会 (1年～蘭亭序より)	2	行書の特徴を 結構、用筆、運筆から理解する。「三筆」についても説明。全員に賞の与えられる大会で、練習の成果を試す。	始業式
9	硬筆	◎ペン字検定 (理論)	8	毛筆に飽きる頃、硬筆を取り入れ気分転換を図る。 部首名、書き順など理論の学習。	
10	硬筆	◎ペン字検定 (実技)	16	ひらがな、楷書の基本練習。 行書の書き方を習得する。 ハガキ、ポスターの書き方など。	中間考查
11	行書 生活の中の書	◎風信帖 ◎年賀状の書き方		空海について知る。 身近にある書への関心を深める。	
12	展覧会参加	◎書初め大会	6	大きな紙による真剣な取り組みで刺激を与える。	期末考查 終業式
1	小筆	◎かな文字 ◎実用書 (筆ペン)	6	仮名の歴史、基本など「いろは歌」から学ぶ。 御祝、中元など生活の中の身近にある書への関心を高める。	始業式
2	隷書 篆書(篆刻)	◎曹全碑 ◎(自分の印稿を作ってみよう)	14	今までとは全く違う筆遣い(蔵鋒)を学び、芸術性を養う。 隷書の書体が色々なところで使われていることを理解する。	期末考查
3	まとめ	◎創作 ◎書道歴の学習		集の表紙制作。 1年間分の作品を自分で作った「こより」で綴じ、自己評価してみる。 プリントで、1年間のまとめをする。	終業式

教科名	外国語（英語）	科目名	コミュニケーション英語Ⅰ	単位数	5単位
対象学年	第1学年 特別進学コースα・β	履修形態	必修	授業形態	一斉授業
科目の目標	①英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけることができる。 ②英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を身につけ、それを伸ばすことができる。				
学習内容の概要	目標に基づき、「コミュニケーション英語Ⅰ」の内容のコミュニケーション活動を更に発展させて学習する。				
学習方法	適当な言語の使用場面を適宜取り上げ、有機的に組み合わせて活用する。 その際、聞いたり読んだりした内容について、それについての質問に答えたり、その部分の要約を書いてペアで発表しあったりするなど、総合的な言語活動を行う。				
評価の観点・評価方法	1学期・2学期・3学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。 平常点20点は授業態度・意欲・提出物の状況・理解度の4項目各5点で評価する。				
使用教材	「LANDMARK Communication EnglishⅠ」（啓林館） 「総合英語Evergreen」（いいずな書店） 「チャンクで英単語 Basic」投野 由紀夫編（三省堂）				
その他	・English Central ・Online Speaking Training				

年 間 授 業 計 画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	中学校の復習 Lesson1 What Can Blood type tell us?	不規則動詞活用表のテスト、それを活用した英作文・発話 血液型に対する日本人と外国人の関心の違いを理解する	1 22	基礎知識を身につける 動名詞、不定詞、接続詞that	始業式 新入生オリエンテーション
5	Lesson2 Curry Travels around the World	カレーのルーツと語源を理解する	22	分詞の後置修飾、現在完了形	中間考査
6	Lesson3 School Uniform	6か国の制服に対する意見の違いを理解する	22	関係代名詞、S+V+O(疑問詞)	進路合宿 期末考査
7	Tips for Listening1 Reading1	英語の音声の特徴について理解する 物語を読む	1 4	紛らわしい音、アクセント	終業式
8	Lesson4		2		始業式
9	Gorillas and Humans	ゴリラが絶滅しつつある現状とその原因を理解する	22	seemの用法、現在完了進行形	学校祭
10	Lesson5 "gr8" or great?	新種の言語がもたらす影響について理解する	22	Itの形式主語構文、知覚動詞	中間考査
11	Lesson6 Biodiesel Adventure	環境に優しい活動について考える	22	過去完了形、使役動詞	期末考査
12	Lesson7 Eco-tour on Yakushima	屋久島とエコツアーについて理解する	6	前置詞＋関係代名詞 関係副詞	終業式
1	Lesson8 Mariko Nagai, Super Interpreter	通訳者の仕事を知ることを通して、自分の将来就きたい職業について意見交換する	22	関係代名詞what 分詞構文	始業式・実力テスト
2	Lesson9 Space Elevator	宇宙エレベーターで宇宙に行けたら何をしたいかについて意見交換する	22	仮定法過去、倍数表現	期末考査
3	Lesson10 Friendship over time	トルコと日本の友情が生まれた経緯を理解し、自分に置き換えて考え意見交換する	6	関係代名詞の非限定用法 仮定法過去完了	卒業式 終業式

教科名	外国語(英語)	科目名	コミュニケーション 英語 I	単位数	3単位
対象学年	第1学年 進学コース	履修形態	必修	授業形態	学級単位 一斉授業
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。				
学習内容の概要	生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して言語活動を英語で行う。				
学習方法	聞いたことや読んだことを踏まえた上で話したり書いたりするといった4技能を結びつけた言語活動を通してコミュニケーション能力を育成する。生徒の実態に応じて、問題集などを併用することにより、中学校における基礎的な学習事項を復習整理し、習熟するように指導する。				
評価の観点 評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点20点は授業態度・授業参加および学習意欲・提出物の状況等で評価する。				
使用教材	●Landmark Fit English Communication I(教科書&予習・完成ノート/啓林館) ●『クラウン チャンクで英単語 Basic』(単語帳/三省堂)				
その他	●『総合英語Evergreen』/●『総合英語Evergreen English Grammar 23Lessons』(いっずな書店)				

年 間 授 業 計 画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	Landmark Fit English Communication I Preparatory Lesson	1. 文を作る要素と品詞 2. 英語の文構造 3. 句と節 4. 文の種類	9	英語学習を始める前の基礎固めをする。	始業式 新入生合宿
5	Landmark Fit English Communication I Lesson 1	What Can Blood Type Tell Us? (大衆文化・比較文化) 血液型で性格はわかるのか?	3 3 3 3	・進行形 ・助動詞 ・受動態	中間考査
6	Landmark Fit English Communication I Lesson 2	Curry Travels around the World (食物・歴史) はるかなるカレーの旅	3 3 3 3	・動名詞 ・現在完了形(継続・経験・完了)	期末考査
7	Landmark Fit English Communication I Lesson 3	School Uniforms (学校・比較文化) 世界の制服事情	3 3	・不定詞(名詞的用法) ・原級を使った比較 ・比較級・最上級を使った比較	終業式 夏期補習
8	Landmark Fit	Gorillas and Humans	3		始業式
9	English Communication I Lesson 4	(動物) 知られざるゴリラの生態	3 3 3 3	・不定詞(副詞的用法・形容詞的用法) ・It~to不定詞の形式主語構文	
10	Landmark Fit English Communication I Lesson 5	"gr8" or great? (言語・比較文化) メールから生まれる新言語	3 3 3 3	・関係代名詞(主格・目的格) ・間接疑問文 ・It~thatの形式主語構文	体育祭 中間考査
11	Landmark Fit English Communication I Lesson 6	Biodiesel Adventure (外国・環境) 廃食油で世界中をドライブ	3 3 3 3	・過去分詞・現在分詞の形容詞的用法 ・過去完了形(完了) ・関係代名詞what	文化祭 期末考査
12	Landmark Fit English Communication I Lesson 7	Eco-tour on Yakushima (環境・世界遺産) 屋久島エコツアーを体験!	3 3 3	・S+V+O+to不定詞 ・S+V[使役動詞]+O+動詞の原形 ・関係副詞whereとwhen	終業式
1	Landmark Fit English Communication I Lesson 8	Mariko Nagai, Super Interpreter (女性・職業) 女性通訳者の仕事にかける情熱	3 3 3	・S+V[知覚動詞]+O+動詞の原形 現在分詞 ・現在分詞の分詞構文	始業式
2	Landmark Fit English Communication I Lesson 9	Space Elevator (宇宙・科学) エレベーターで宇宙へ!?	3 3 3 3	・仮定法過去 ・助動詞を含む受動態 ・倍数表現 ・seemを使った表現	期末考査
3	Landmark Fit English Communication I Lesson 10	Friendship over Time (歴史・国際関係) トルコ軍艦エルトゥールル号の恩返し	3 3 3	読み物	終業式

教科名	外国語(英語)	科目名	コミュニケーション英語 I	単位数	3 単位
対象学年	第1学年 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	学級単位
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。				
学習内容の概要	生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して言語活動を英語で行う。				
学習方法	聞いたことや読んだことを踏まえた上で話したり書いたりするといった4技能を結びつけた言語活動を通してコミュニケーション能力を育成する。生徒の実態に応じて、問題集などを併用することにより、中学校における基礎的な学習事項を復習整理し、習熟するように指導する。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。 平常点20点は授業態度・意欲・提出物の状況・理解度の4項目各5点で評価する。				
使用教材	COMET English Communication I (数研出版) COMET 基本文法定着ドリル1 (数研出版) ベーシックジーニアス英和辞典 (大修館書店)				
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時 間	学 習 の ポ イ ン ト	主 な 学 校 行 事
4	COMET Lesson1 定着ドリル	Why Do We Study English? 時を表す形	3 3 3	聞き返す表現 を中心に学習する。	始業式 新入生合宿
5	COMET Lesson2 定着ドリル	Washoku: our Traditional Food 動詞に意味をつけ加える語	3 3 3 3	人を誘う表現 を中心に学習する。	中間考査
6	COMET Lesson3 定着ドリル	What Should I Do? そのとき行われている動作	3 3 3 3	人に助現する表現 を中心に学習する。	期末考査
7	COMET Lesson4 定着ドリル	My school, Your School さまざまな動きをする語	3 3	相手の許可を求める表現 を中心に学習する。	終業式 夏期補習
8	COMET Lesson5 定着ドリル	Peace, the Polar Bear 動詞を名詞代わりに	3	人に依頼する表現 を中心に学習する。	始業式
9	COMET Lesson5 定着ドリル	Peace, the Polar Bear 動詞を名詞代わりに	3 3 3 3	人に依頼する表現 を中心に学習する。	
10	COMET Lesson6 定着ドリル	Flying Wheelchairs 過去と現在をつなぐ	3 3 3 3	感謝を表す表現 を中心に学習する。	中間考査
11	COMET Lesson7 定着ドリル	Moving As One 動作を受ける側を主語に	3 3 3 3	人に謝る表現 を中心に学習する。	期末考査
12	COMET Lesson8 定着ドリル	Convenience Stores: the Keys to Their Success 動詞を形容詞の代わりに	3 3 3	相手を心配する表現 を中心に学習する。	終業式
1	COMET Lesson9 定着ドリル	Malala yousafzai: Education Can Change the World ものを比べる	3 3 3	相手をほめる表現 を中心に学習する。	始業式
2	COMET Lesson9 定着ドリル	Malala yousafzai: Education Can Change the World ものを比べる	3 3 3 3	相手に何かを示す表現 を中心に学習する。	期末考査
3	COMET Lesson10 定着ドリル	Ando Momofuku: the Father of Instant Noodles 名詞の説明を導く	3 3 3	自分の希望を伝える表現 を中心に学習する。	終業式

教科名	外国語（英語）	科目名	英語表現 I	単位数	2 単位
対象学年	第 1 学年 特別進学コース α	履修形態	必修	授業形態	一斉授業
科目の目標	① 情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書く能力を更に伸ばすこと。 ② この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てること。				
学習内容の概要	生徒が情報や考えなどの送り手や受け手になるように具体的な言語の使用場面を設定する。その場面や目的に応じて、読み手に理解されるように書くこと。				
学習方法	聞くこと、話すことおよび読むことも有機的に関連付けた活動を行いながら、より豊かな内容やより適切な形式で書けるように学習する。				
評価の観点・評価方法	1 学期・2 学期・3 学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。 平常点20点は授業態度・意欲・提出物の状況・理解度の 4 項目各 5 点で評価する。				
使用教材	Vision Quest English Expression I Standard - Keirinkan				
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	Lesson 1	Let's have lunch together sometime.	1 2 2	Introductions Intonation Backchannel responses Types of sentences	始業式 新入生合宿
5	Lesson 2	Are you interested in Japanese anime?	2 2 2 2	Interests Rhythm Rephrasing Changing the subject Sentence patterns and verbs	中間考査
6	Lesson 3	I'm going to Okinawa with my family.	2 2 2 2	Travel Vowels Making plans / scheduling Tense	期末考査
7	Lesson 4	I hear you've joined the soccer team.	2 2 2	Sports Consonants Stating causes or reasons Perfect aspect	終業式
8	Lesson 5	Can you tell me what ammitsu is like?	1 2	Eating out Katakana words Asking for permission Asking favors Auxiliary Verbs	始業式
9	Lesson 6	I'm so glad I can see the Sydney Opera House.	2 2 2 2	Sightseeing Pronunciation of numbers Expressing pleasure / surprise Passive voice	
10	Lesson 7	It's very nice of you to say so.	2 2 2 2	Socializing Word stress Thanking Apologizing Infinitives	中間考査
11	Lesson 8	How about going to see a musical?	2 2 2 2	Pastimes Sound links Inviting someone Making offers Gerunds	期末考査
12	Lesson 9	I'm for school uniforms.	2 2 2	Rules Agreeing / Disagreeing Participles	終業式
1	Lesson 10	How do you spend Christmas?	1 2 2	Cultures Explaining Relative clauses	始業式
2	Lesson 11	Did you watch the debate on TV last night?	2 2 2 2	Social problems Asserting Comparison	
3	Lesson 12	I wish my parents were more understanding.	2 2 2	Personal problems Giving advice Subjunctive	卒業式

教科名	外国語（英語）	科目名	英語表現 I	単位数	2 単位
対象学年	第1学年 進学コース・総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	一斉授業
科目の目標	①英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。 ②英語を通じて情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を身につける。				
学習内容の概要	教科書及びその関連した言語材料を用い、4領域を総合的、有機的に関連付けたコミュニケーション活動を行う。				
学習方法	文法事項の形態から伝達の意味内容に発展できるよう、運用すべく多くの場面を通して生きた英語運用能力を身に付ける。				
評価の観点・評価方法	1学期・2学期・3学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。 平常点20点は授業態度・意欲・提出物の状況・理解度の4項目各5点で評価する。 ※平常点のうち、スピーチの評価の比重を大きくする。				
使用教材	Grove English Expression I（文英堂） Grove English Expression I ワークブック（文英堂）				
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	Lesson 1, 2	新しい学年が始まります／ 親友を紹介します	1 2 2	第1, 2, 3文型の確認をし、 英作文をする。	始業式 新入生オリエンテーション
5	Lesson 3, 4	起きなさい／よい週末を	2 2 2	現在形、過去形、未来形、 現在進行形の復習をし、 英作文をする。	中間考査
6	Lesson 5, 6 HOW TO MAKE A SPEECH (1)	メールで連絡することができます／ どんな町に住んでいますか	2 2 2 2	助動詞、副詞節、Itの用法の 復習をし、英作文をする。 自己紹介	
7	Lesson 7	夏が来ました	2 2 2	第4, 5文型の確認をし、 英作文をする。	期末考査 終業式
8	Lesson 8	何か変わったことがあり ましたか	1 2	There構文、受け身の復習 をし、英作文をする。	始業式
9	Lesson 9, 10 HOW TO MAKE A SPEECH (2)	何を読んでいますか／ お昼を食べましょう	2 2 2 2	現在完了形、現在完了進行形 の復習をし、英作文をする。 旅行	
10	Lesson 11, 12	スポーツは好きですか／ ペットを飼っていますか	2 2 2 2	比較、分詞の復習をし、 英作文をする。	中間考査
11	Lesson 13, 14	趣味は何ですか／ 旅行は楽しい	2 2 2 2	不定詞、動名詞の復習をし、 英作文をする。	
12	Lesson 15	これを買います	2 2 2	SV0（＝that節、疑問詞節）の 復習をし、英作文をする。	期末考査 終業式
1	HOW TO MAKE A SPEECH (3) Lesson 16, 17	外で食事しよう／ 環境をまもろう	1 2 2	携帯電話かコンピュータか 疑問詞 to do, too ~ to do, 形式主語 it, SV0 to doの 復習をし、英作文をする。	始業式 実力テスト
2	Lesson 18, 19	映画は好きですか／ 冬が来ました	2 2 2 2	関係代名詞、関係副詞の 復習をし、英作文をする。	期末考査
3	Lesson 20	試験の準備はできましたか	2 2 1	仮定法過去、wish仮定法過去の 復習をし、英作文をする。	終業式

教科名	家庭	科目名	家庭基礎	単位数	2 単位
対象学年	第1学年 普通科	履修形態	必修	授業形態	一斉授業
科目の目標	人の一生と家族・福祉, 衣食住, 消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。				
学習内容の概要	ともに生きる社会をめざして 人の一生と家族・家庭・福祉 自立した生活をめざして 生活の自立と健康・安全				
学習方法	・新聞等で社会の動きを把握するとともに, 自分の家庭及び地域の実態にも目を配り, そこに存在する生活課題を見つけ, 課題意識を持つ。 ・問題解決の過程を大切に, 授業で身に付けた知識や技術を日常生活の中で生かし, 日々の生活改善, 充実に努める。				
評価の観点・ 評価方法	・評価の観点は①家庭科への関心, 意欲, 態度 ②生活課題を主体的に解決するために思考, 判断 ③基礎的, 基本的な技術の習得状況及び表現 ④知識, 理解 の4項目とする。 ・評価の方法は, 規定に従い考査の成績とノート, プリント提出状況, 実習への参加, 態度などを各学期ごとにまとめる。また, 授業中の学習態度, 出席状況について考慮し, 総合的に評価する。				
使用教材	「家庭基礎 ともに生きる・持続可能な未来つくる」(第一学習社), 課題プリント				
その他					

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	1章 これからの生き方と家族	第1節 青年期を生きる 第2節 家族・家庭と社会とのかかわ	3 3	人の一生を生涯発達の視点でとらえ, 家族・家庭の意義を理解し, 家族の一員としての意識を持つ。	始業式
5	2章 次世代をはぐくむ	第1節 子どもの発達 第2節 親の役割 第3節 子育て支援と福祉	2 2 2	子どもの発達, 保育, 福祉をとおして, 健全な発達を支える親や社会の役割を理解し, 保育への関心を深める。	中間考査
6	3章 充実した生涯へ	第1節 高齢期を生きる 第2節 高齢社会を支えあう	4 4	高齢者に対する正しい認識から介護の基礎など体験的な学びと役割を知る。	
7	4章 ともに生きる	第1節 境保障制度と福祉 第2節 ともに生きる社会をめざして	3 3	くらしを支える福祉のあり方を理解する。	期末考査 終業式
8	5章 食べる	第1節 人の一生と食事	2	栄養・食品・調理・食品衛生などに関する基礎的な知識と技術を習得し, 家族の食生活を健康で安全に営むことができるようにする。	始業式
9	5章 食べる	第2節 栄養と食品	8		
10	5章 食べる	第3節 食生活の安全のために 第4節 食生活をデザインする	4 4		中間考査
11	6章 装う	第1節 人の一生と被服 第2節 被服材料と管理	4 4	衣服の機能や着装, 材料などの基礎的な知識と技術を習得し, 家族の衣生活を健康で快適に営むことができるようにする。	
12	7章 住まう	第1節 人の一生と住まい 第2節 住生活の計画と選択	3 3	住居の機能, 住生活と健康, 安全などに関する基礎的な知識と技術を学び, 家族の住生活を健康で快適に営むことができるようにする。	期末考査 終業式
1	8章 経済生活を営む	第1節 私たちの暮らしと経済 第2節 消費者問題を考える 第3節 持続可能な社会をめざして	2 2 2	家庭経済や消費生活に関する基礎的な知識を学び, 現代の消費生活の課題を認識し, 消費者として責任をもって行動できるようにする。	始業式
2	9章 生活をデザインしよう	これからの生活を考える	8	家庭科の学習から課題を見つけ生活に生かす。	学年末考査
3	10章 生活の充実・向上をめざして	「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ活動」	6		終業式

教科名	情報	科目名	社会と情報	単位数	2
対象学年	第1学年 普通科	履修形態	必修	授業形態	クラス単位
科目の目標	コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を修得させる。 大学進学後に必要となるコンピュータリテラシーを身に付ける。				
学習内容の概要	アプリケーションソフトの操作方法を通じて、コンピュータのしくみや情報を収集・処理・発信するための基本操作を習得する。 情報モラルなど情報化社会での必要な知識や最近の新聞などで取り上げられている情報関連の問題を考えさせる。				
学習方法	教室での講義とコンピュータ室での実習を組み合わせる。 コンピュータの実習課題が遅れている生徒のために昼休憩にコンピュータが使えるよう配慮する。				
評価の観点・評価方法	各学期に1回(期末)に実技・筆記試験をおこなう。 本校の平常点に実習課題の評価を含める。 授業態度や意欲、課題提出や発表を総合的に評価する。				
使用教材	教科書 実教出版 最新社会と情報 新訂版 副教材 実教出版 最新社会と情報 新訂版 学習ノート				
その他	実習(作品)課題及び提出課題が提出されない場合は単位を認定しない。 実習教室の関係などで授業の内容が前後することもある。				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学 習 の ポ イ ン ト	主な学校行事
4					入学式
5	情報社会と私たち	情報社会と情報 情報化の光と影	8	「情報」とは何かから始まり、その情報の功罪について学習する。	期末考査
6		情報とメディア 情報モラルと社会のルール	10	情報の特徴を知り、自分が情報をどのように接点を持っていくかを考える。また、情報の発信者にもなりうることを自覚し、モラルとルールを考える。	
7	情報機器とデジタル表現	情報機器とデジタル デジタル表現	10	ハード、ソフトウェアの基本構成と、それらがコンピュータにどのように作用しているのかを学習する。また、アナログとの対比から、2進数などを用いてデジタルの特有性を学ぶ。	終業式 始業式
8					全商情報処理検定
9	表現と伝達	表計算ソフト プレゼンテーションソフト	14	表計算ソフト(Excel)、プレゼンテーションソフト(PowerPoint)を用い、情報をわかりやすく伝える方法について学習する。	
10					
11	コミュニケーションとネットワーク	コミュニケーション ネットワーク 情報セキュリティ	12	人間が古来から持つコミュニケーションに、現代のネットワークがどのように作用しているのかを学習し、同時にセキュリティについても考えさせる。	期末考査
12					
1	情報社会と問題解決	情報システムと人間 情報発信 問題解決	12	現代の世の中に、情報システムがどのように作用しているのかを学習する。また、そこから将来の情報社会を考え、現代の課題を学習する。また、問題解決の手法を学び、情報の収集方法や、活用法を学習する。	終業式 始業式
2					全商情報処理検定
3	実習	文章作成 表計算 プレゼンテーション	14	Word、Excel、PowerPointの使用法を学び、各種機能を活用できるスキルを身に付ける。	学年末考査 終業式